

(学年) 2年

(日にち) 11月28日～12月9日

(教科・単元名) 国語 「お手紙」(8時間扱い)

(実践) 登場人物の気持ちを想像し、自分の読みを作り、集団思考で読み深める。

授業の流れ

1. 題名読み。個人で全文通読。読み終わったら登場人物、初発の感想、「何がどうした話」かをまとめる。
2. 登場人物の確認。会話文が多いので誰の台詞かを確認。がまくんの会話文にシールを貼り、かえるくんの台詞には②、かたつむりの台詞にはかたと記入。音読練習。
3. 登場人物の気持ちが表れている文に赤と青の線を引きながら読む。赤…うれしい、楽しい。青…かなしい。一通り終わった児童は、どうしてその線を引いたのかわけや気持ちを書かせる。
4. 線を引いた箇所とわけを発表させながら登場人物の気持ちの変化を読みとっていく。心情曲線にも表していく。(4時間)
5. 「お手紙」の内容を一文でまとめる。

(学習のふりかえり)

- 会話文にシールを貼るとだれの会話文が分かりやすく、会話文に気持ちが表現されていることが捉えられる。
- 線を引きながら読んでいくことは、一人読み(書き込み)の手法だが、赤、青と色をつけた線を引くことは、文章を読むのが苦手な児童も取り組むことができた。人物の心情がうれしいのか、かなしいのかは、だいたい読み分けられたと言える。全体の話し合いでは、どうして赤なのか青なのか、理由の説明がうまくできなくても自分の考えが持てたことにより進んで話し合いに参加する様子が見られた。
- 話し合いの中で、がまくんは赤と青で気持ちを読みとることができるが、かえるくんの気持ちは、赤と青だけでなく、がまくんに対しての優しさもあると意見が出て、ピンクで表した。
- 全文を見直したときに気持ちが大きく変化しているのは、がまくんであり、中心人物ががまくんであること押えることができた。がまくんの気持ちを追っていくと大きく変化した叙述がわかり、話の山場を捉えられた。かえるくんは、がまくんに対する優しい気持ちが多く、二人の関係を捉えることもできた。